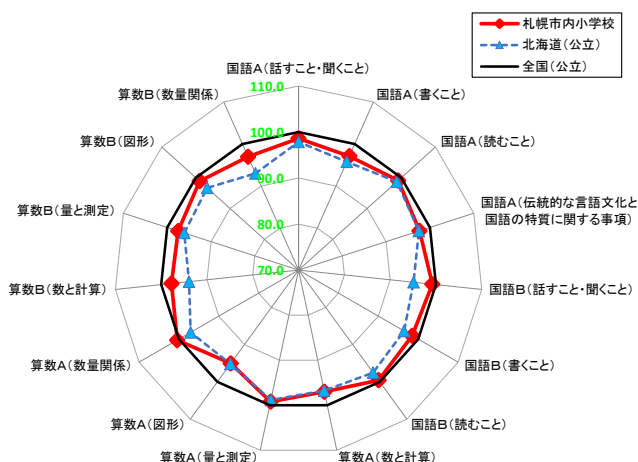


■札幌市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:202、児童数:14810名)

【教科全体の状況】

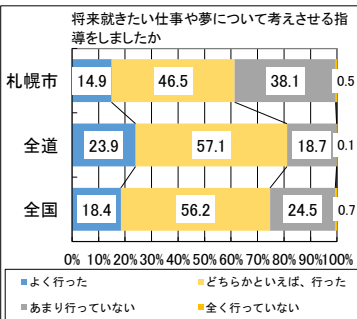
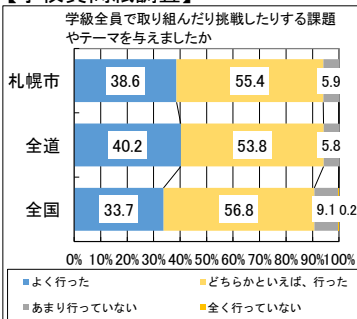
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



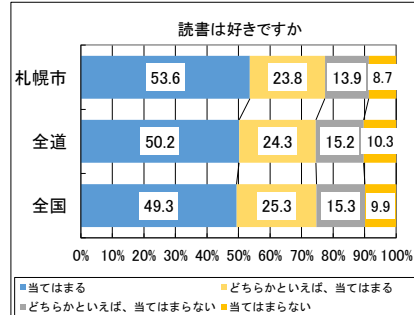
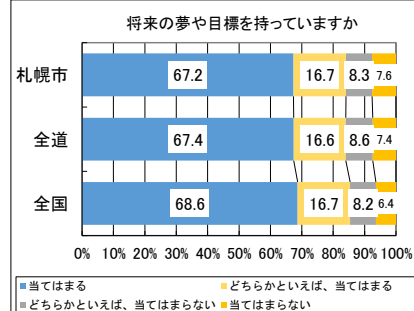
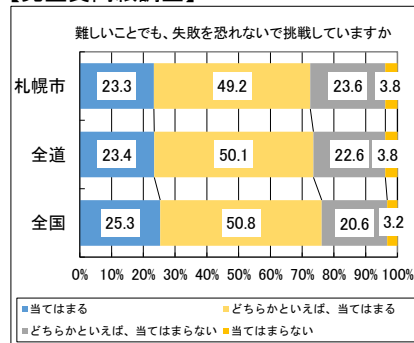
札幌市の平均正答率(%)

国語A	国語B	算数A	算数B
71.3	57.4	75.7	45.9

【学校質問紙調査】



【児童質問紙調査】



【分析】

教科	○ 算数Aの「図形」領域において、全国平均正答率を3.1ポイント以上、下回っている。国語、算数ともにその他の領域においては、全国平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内で、ほぼ同程度である。	○ 知識・技能の定着(国語A・算数A)については、小学校国語(漢字を正しく書くことなど)、算数(小数・分数の乗法・除法の計算など)に課題。
児童質問紙	○ 「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」児童の割合は、72.5%であり、平成19年度(69.8%)に比べ増加しているが、全国平均より3.6ポイント低い状況。 ○ 「将来の夢や目標を持っている」児童の割合は、83.9%であり、平成19年度(81.5%)に比べ増加しているが、全国平均より1.4ポイント低い状況。 ○ 読書が好きな児童の割合は、77.4%であり、平成19年度(72.0%)に比べ増加し、全国平均より2.8ポイント高い状況。	○ 「適切な根拠に基づいて説明すること」や「自分の考えを書くこと」などの問題で、全国と同様に無解答率が高い状況が見られ、課題。
学校質問紙	○ 「学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えた」学校の割合は、94.0%であり、全国平均より3.5ポイント高い状況。 ○ 「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした」学校の割合は、61.4%であり、全国平均より13.2ポイント低い状況。	

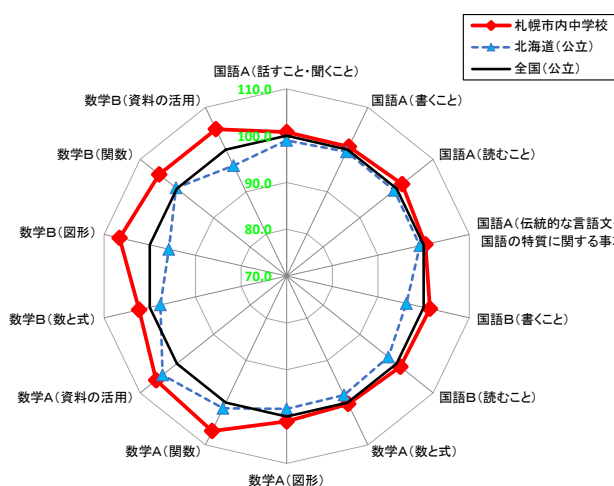
【札幌市の学力向上策】

◎ 各学校の創意工夫による指導方法等の工夫改善～「学ぶ力」育成プログラムの活用	● 「学ぶ力」育成プログラムの作成・実行・改善(PDCAサイクルによる検証改善)(H26年度～) * 各学校のHPに掲載 ○ 「学ぶ力」育成プログラムの様式改訂(H29～) * 徹底して行う取組の焦点化・具体的な取組に対する成果検証等 ○ 「学ぶ力」育成プログラムの改善に向けた校内研修の充実 ・指導主事による助言機会の拡充 ・研究開発事業における研修プログラム等の実践例の普及 ・校内研究の代表者に向けた研修会(札幌市教員研修会 校内研究推進会議) ○ 「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイントを柱として、次の2つの視点から授業改善 1. 課題探究的な学習の充実 2. 学習評価の充実	「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイント 1. 難しいことにも挑戦する態度を伸ばす。 2. 「自ら学ぶ方法」と「人と学ぶ方法」を身に付けられるようにします。 3. 意欲や興味を伴った知識の習得と、知識を使いこなす力を伸ばします。 4. 自分、「何」を実現して、新たな目標をもてるようにします。 5. 生活を自らコントロールする力を育みます。
◎ 全市での「課題探究的な学習の推進」	● 自ら疑問や課題をもち、主体的に解決する課題探究的な学習を取り入れた授業の充実 ○ 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点から授業づくりと授業の振り返り ○ セルフチェックを活用した授業づくりと授業の振り返り ○ 教育委員会において、課題探究的な学習に関する考え方や各施策の関連を整理するとともに、さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プランに位置付け、各学校における取組をより一層推進	セルフチェック(例) 1. 子どもが興味・関心、疑問を十分にもてるようにするためには？ 2. 子どもが意欲を持続させることのできる課題を設定するためには？ 3. 子どもが課題の解決に向けて見通しをもてるようにするためには？ 4. 子どもが協働して課題解決に向かえるようにするためには？ 5. 子どもが多面的・多角的に考察できるようにするためには？ 6. 子どもが学びのよさや、できるようになった喜びを実感し、次の課題に向かえるようにするためには？
◎ 指導資料・家庭への啓発等の充実～さっぽろっ子「学び」のススメ(仮称)の発行と活用	● さっぽろっ子「学び」のススメ(仮称)の発行と活用 ○ 「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイントを柱として、学校と家庭が子どもの学習習慣づくり・生活習慣づくりを進める際の指針として活用 ○ さっぽろっ子「学び」のススメ(仮称)を基に、学校と家庭が目標を共有し、子どもの主体的な学びを共に支えていく取組を充実	

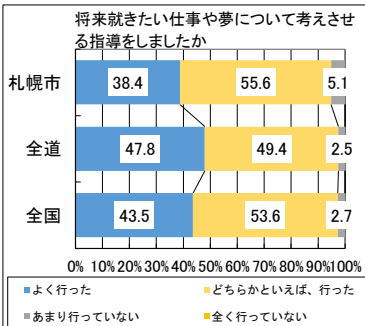
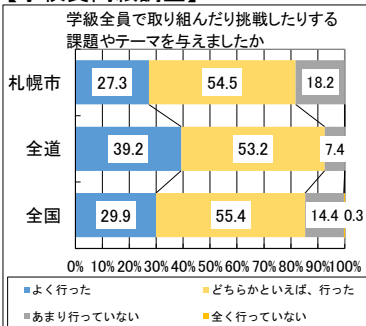
■ 札幌市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:99、生徒数:15158名)

【教科全体の状況】

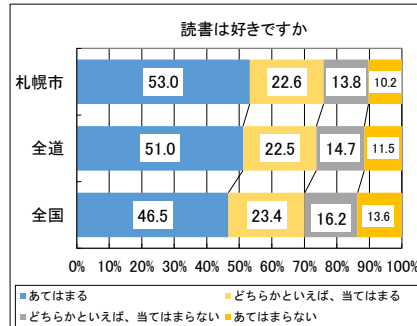
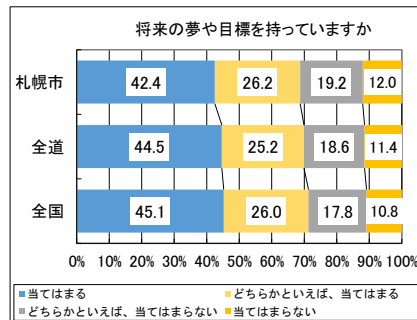
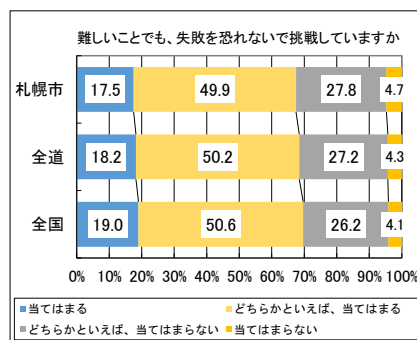
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【学校質問紙調査】



【生徒質問紙調査】



【分析】

教 科	○ 数学Aの「関数」領域、「資料の活用」領域において、全国の平均正答率を3.1ポイント以上、上回っている。国語、数学ともにその他の領域においては、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内で、ほぼ同程度である。	○ 「活用」に関しては、全国平均正答率を上回る問題が見られている。
生徒質問紙	○ 「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している」生徒の割合は、67.4%であり、平成19年度(62.7%)に比べ増加しているが、全国平均より2.2ポイント低い状況。 ○ 「将来の夢や目標を持っている」生徒の割合は、68.6%であり、平成19年度(69.2%)に比べほぼ同程度であるが、全国平均より2.5ポイント低い状況。 ○ 読書が好きな生徒の割合は75.6%であり、平成19年度(66.5%)に比べ増加し、全国平均より5.7ポイント高い状況。	○ 「根拠を明確にして、自分の考えを書くこと」や「考察した結果を基に、問題解決の方法を説明すること」などの問題で、全国と同様に誤答率・無解答率が高い状況が見られ、課題。
学校質問紙	○ 「学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えた」学校の割合は、81.8%であり、全国平均より3.5ポイント低い状況。 ○ 「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした」学校の割合は、94.0%であり、全国平均より3.1ポイント低い状況。	

【札幌市の学力向上策】

◎ 各学校の創意工夫による指導方法等の工夫改善～「学ぶ力」育成プログラムの活用

- 「学ぶ力」育成プログラムの作成・実行・改善(PDCAサイクルによる検証改善(H26年度～) * 各学校のHPに掲載
 - 「学ぶ力」育成プログラムの様式改訂(H29～) * 徹底して行う取組の焦点化・具体的な取組に対する成果検証等
 - 「学ぶ力」育成プログラムの改善に向けた校内研修の充実
 - ・指導主事による助言機会の拡充
 - ・研究開発事業における研修プログラム等の実践例の普及
 - ・校内研究の代表者に向けた研修会(札幌研究事業 校内研究推進会議)
- 「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイントを柱として、次の2つの視点から授業改善
 - 1. 課題探究的な学習の充実 2. 学習評価の充実

◎ 全市での「課題探究的な学習の推進」

- 自ら疑問や課題をもち、主体的に解決する課題探究的な学習を取り入れた授業の充実
 - 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点から授業づくりと授業の振り返り
 - セルフチェックを活用した授業づくりと授業の振り返り
 - 教育委員会において、課題探究的な学習に関する考え方や各施策の関連を整理するとともに、さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プランに位置付け、各学校における取組をより一層推進

◎ 指導資料・家庭への啓発等の充実～さっぽろっ子「学び」のススメ(仮称)の発行と活用

- さっぽろっ子「学び」のススメ(仮称)の発行と活用
 - 「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイントを柱として、学校と家庭が子どもの学習習慣づくり・生活習慣づくりを進める際の指針として活用
 - さっぽろっ子「学び」のススメ(仮称)を基に、学校と家庭が目標を共有し、子どもの主体的な学びを共に支えていく取組を充実

「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイント

1. 難しいことでも挑戦する意欲を促します。
2. 「自ら学ぶ方法」と「人と学ぶ方法」を身に付けられるようにします。
3. 意欲を伴った知識の習得と、知識を使いこなす力を伸ばします。
4. 自分の「能力」を表現して、新たな目標をもてるようにします。
5. 生活を自らコントロールする力を育みます。

セルフチェック(例)

1. 子どもが興味・関心、疑問を十分にもてるようにするためには？
2. 子どもが意欲を持続させることのできる課題を設定するためには？
3. 子どもが課題の解決に向けて見通しをもてるようにするためには？
4. 子どもが協働して課題解決に向かえるようにするためには？
5. 子どもが多面的・多角的に考察できるようにするためには？
6. 子どもが学びのよさや、できるようになった喜びを実感し、次の課題に向かえるようにするためには？